入選（低学年の部）

世界一の弟

京都府　ノートルダム学院小学校　三年
廣瀬（ひろせ）　真優子（まゆこ）

「お姉ちゃん、今日はどうやった？」
私が学校から帰ると、いつも玄関に走ってきた弟がとびつく。
大好きな水泳があった日、図工で写生をした植物園に行った日、クラブをがんばった日、嬉しそうな顔で、
「どうやった？」
と聞いてくれる。自分のことのように喜んで、ぎゅっとくっついてくる。
テストがあった日、漢字大会の日、給食が私のにが手なメニューだった日なんかは、心配そうにまゆを下げて、
「どうやった？」
と聞いてくる。
「あかんかったわ…。」
なんて私がつぶやいた時には、私より先に泣いてしまって目を真っ赤にする弟。
とくべつ変わりない日にも、とびっきりの笑顔で、
「どうやった？」
とだきついてくる弟。その弟の、とびっきりの笑顔が私にとって、とびっきりの宝物。
私が、お母さんにおこられている時、ふと横を見ると、なぜか私のとなりにちんと正座してしょんぼり首を下げている弟のすがたが。私は、むねがきゅんとして涙が出た。
家族一人一人の事を、自分の事のように感じてくれて、泣いたり笑ったりする優しい弟は、世界一だ。私は弟が大好きだ。
何でも私のまねっこする弟。いい事も悪い事も全部まねっこ。もっと小さいころは、私のスカートをはいたり、髪にリボンをつけたり。時には、おこりたくなる事もあるけど、世界にたった二人しかいないお茶目な弟がかわいくてたまらない。
いつもおちゃらけて、みんなを笑わせてくれて家族を幸せにしてくれる弟。ちょっぴり泣き虫で、いつも私の背中にくっつく弟。
私たちは、二年前あった地震の時東京駅にいた。私は自分も手足がふるえるくらいこわかったはずなのに、気づいたらとっさに弟の体の上におおいかぶさっていた。こんな力がわいた自分にびっくりした。その時このかわいい弟を一生守って、たすけ合っていこうと心に決めた。
まだよくベソをかく6才の小さな弟は、
「ぼくが、お姉ちゃんを守るからね。」
と最高の笑顔で私に言ってくれる。
「いつもありがとう。」